「日本グアム親善大会を終えて」

齋 藤 忠 男

第３回日本グアム親善大会に際しましては、大変お世話になりました。有り難うございました。第２回大会にも出場させて頂きましたので、２年続けての出場でした。

１．＜目的＞

第３回大会に出場する目的は、４つありました。
その１つは、昨年成し得なかった、グアムの方々との交流、親善を、見える形で果たす事。
２つ目は、翌年この大会に出場する事を、早くに決めて（第２回大会直後）、それをモチベーション維持の原動力として、１年後に同じステージに立って、良くなった身体、あるいは部位を見て頂き、結果が出た事を立証する事。
３つ目は、この大会に出場した私達選手が、如何にこのグアムの大会が刺激的でかつ感動的であるかを、国内の皆さんに発信する事。
４つ目は、４日間共に行動する選手の皆さん方との交流・親睦でした。

２．＜目的達成のためにした事＞

年間を通して、規則正しい生活をしながら、とにかくトレーニングをしました。
寒い日も、暑い日も、鍛える部位の目標を明確にして、例年以上に工夫しながら、ただひたすらトレーニングしました。意に反して、反応しない身体でしたが、前に前にと頑張ってみました。
マスターズの選手のシンボルとも言える金澤利翼選手をこの大会にお誘いすること。
金澤選手が出場して下されば、日本のマスターズ選手のレベルをグアムの方々に知って頂けること。更に金澤選手は英語が達者ですので、会話に不自由することがなく、会場内外でグアムの方々と話が出来、情報の交換や、親睦の目的が達成出来る事も考えました。第２回大会直後からお誘いし続け、その日から約 300 日頃に、やっと出場の OK を頂きました。

３．＜親睦＞

そして結果は当初考えていた以上の得るものがありました。（４つの目的の結果について）
１つ目ですが、英語が堪能な金澤利翼選手のお陰で、会場の内外を問わず、グアムの方々との交流が叶いました。バックステージでは、マスターズやバンタム級の地元選手、そして昨年気になっていた、身体の不自由な（Mr. Jason Cruz）選手と話しをすることが出来ました。
２つ目の、私自身の身体をインプルーブすることですが、改善出来ない部分を多く残しながらも、主観的には昨年より良くなっていたと感じていました。ステージ上でも昨年より大きな声援を頂いていましたが、出番が終わり会場に下りた時、薄暗い会場でたくさんの観客から、握手攻めにあいました。ハグされたのも初めてでした。昨年より良かったのかなぁ、と実感した瞬間でもありました。隣の金澤利翼選手の評価は更に高く、大変な歓迎攻めでした。
３つ目の、この大会の感動を国内の皆さんに発信することについては、次の金澤利翼選手のコメントに尽きると思います。
「出番を終えた後、会場で声をかけてくれた観客の言葉は素晴らしかった。その多くは『来

年も又グアムに来てくれるか？』だった。その言葉から察するに、彼らは再びマスターズの活躍をステージ上で観たいという、期待の意味があったと思う。」
この金澤利翼選手のお陰で、日本マスターズ選手のレベルをグアムの皆さんに知って頂けたと思います。
４つ目は、国内の選手との交流ですが、顔を覚えるのが苦手な私であっても、４日間を共に行動し、更にバックステージでは、長い時間の、老若男女混合のパンプアップやカラーリングがあったものですから、自然と親睦が深まりました。男子ボディビルはもちろん、他のカテゴリー、普段お会いしないフィジークの素晴らしい選手とも知り合うことができました。こんな場は、このグアムの大会以外に経験できません。

４．**<まとめ>**
英語を流暢に話せて、日本マスターズ選手権大会で連覇を続けている金澤利翼選手が大活躍でした。「玄米と納豆だけで現在の身体を維持し、更に発達させている。私は 99 歳まで現役で頑張る考えだ。」グアムでこう発信し続けた金澤選手の言葉は、とてもユニークで多くのグアムの方々を驚かせましたが、ステージのパフォーマンスでその実践力を実証していました。金澤利翼選手の言葉「 I'll be back. 」、そして私の「 Me too. 」が全てです。